

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272800226		
法人名	株式会社 エクセシオール・ジャパン		
事業所名	グループホームいきいきの家鴨川		
所在地	千葉県鴨川市古畑317-1		
自己評価作成日	平成22年3月24日	評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>私たちは笑顔で接する事を徹底します。</p> <p>御入居者様のペースに合わせ、無理のない自由な生活が営めるよう配慮しています。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年4月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれたのどかな環境の中に「グループホームいきいきの家鴨川」がある。日当たりが良く、窓からは緑が広がり、明るく開放的な施設となっている。全面バリアフリーとなっており、十分な介助スペースの確保、トイレ・浴室に設置されたナースコール、事務所から施設全体を見渡せる設計等、入居者の安全面に配慮している。片方のユニットに、リフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援を行なっている。また、日々のレクリエーションや外出等が柔軟に実施され、入居者の希望に応じた個別支援が行なわれている。職員は、入居者との信頼関係を大切にしていると共に、安心して過ごせる環境作りに努めており、施設の特徴を活かした温かいケアの実践に努めている。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員のネームプレートの裏に携帯し常に見る事ができる。施設内に掲示・定期的な会議にて随時理念の確認・共有化につなげている。	法人全体の理念・施設独自の理念が造られており、施設内に理念を掲示、来訪者への周知を行なっている。職員全員がネームプレートに理念を携帯していると共に、職員会議等で理念の確認・共有化を図っている。運営推進会議等を活用し、施設に関わる方々に理念の周知を図っている。理念が、堅苦しい表現の為、もう少し柔らかな表現の理念に変更を検討している。	施設長・職員の間で検討し、「新しい施設独自の理念」の成立に、期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事への参加をうながし、又地区行事への参加を多く持てるようにしている。	散歩等の外出時に近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれている。地元神社の伝統行事・地域行事には積極的に参加していると共に、施設行事の際に、地域住民を招待し、地域との交流を図っている。また、施設にて介護相談を受け付けており、地域貢献を行なっている。また、ボランティアによる童話朗読・8ミリ映画上映会など、地域の資産の活用も盛んに行われている。	近隣の保育園・小学校が統廃合により閉園・閉校されてしまった。職場体験などを通じて世代間の交流が途絶えないように、道を探ることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会等の交流会への招待をし悩み・体験を聞いて頂き理解につなげている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の実施にて、市職員・区長・近隣の方・入居者家族との意見交換の中で改善点・希望にそうようにしている。	地区区長・地域住民・地域包括支援センター職員・入居者・家族・職員を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議では施設の現況報告や活動報告等を行い、施設理解の促進を図っていると共に、積極的に意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、感染症や緊急時の対応策等を話し合い、近隣との協力体制を整えている。地域住民から、防災ずきんの導入を提案されたり、新たなボランティアの紹介を受けたりと成果があがり始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は常に取らせていただき、適格な指示をいただき早期の対応につながっています。	市とは、業務全般における相談や連絡を随時行ない連携を図っている。また、鴨川市ボランティア協会に加盟し、ボランティアの紹介を受けると共に、市役所にパンフレットを設置してもらう等、市からの協力も受けている。複数年にわたる市の方針について、意見交換を行うなど、関係強化を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加・報告にて各職員が周知・徹底をしています。施設内においても勉強会を実施しています。	法人・施設共に、身体拘束排除の為に指針を設け、掲示している。身体拘束の事例は、今まで発生していない。外部研修を受けた職員が、ミーティングの際に他の職員に報告し、それをもとに勉強会を開いて、周知・徹底を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加は積極的に取り入れ、毎日のボディーチェックにて外傷確認等、常に異常なしを報告しあいながら厳重に注意しています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、担当者会議において話あい個人にあった支援ができるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明の上、ご了承のもと確認の証明をいただくようになっている。また、何か意見がある時には、面接をもうけ理解をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時・面会時に直接意見・要望を確認している。挙がった意見・要望は報告書に記録し、周知を図ると共に担当者会議にて検討し、適切な対応に努めている。また、運営推進会議で意見交換を通して運営に反映させている。	入居者の意向は、介護記録に記入し、家族からの意見や意向は、電話連絡時や面会時などの機会に聞き、報告書にまとめ運営推進会議・家族会で議題とし、運営に反映させている。また、施設だよりなどを通じ、家族への報告、職員のミーティングの機会に報告し、情報が共有できる仕組みを作っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職連にて意見交換を行う。また定期的に個人面談で個別に意見を聞き、善後策を検討する。	職場連絡会が月に1度開催され、職員からの意見・提案を聞く機会を設けている。職場は、上下関係に左右されことなく自由に討論できる雰囲気がある。	管理者が忙しく、職員がなんとなく遠慮してしまう事がある。勤務時間との兼ね合いもあるが、管理職の仕事を部下に分散するなどして、職員が気楽に相談できるようにゆとりを持てるように期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業ゼロをめざし、公休内2日の希望の取り入れ、昇給制度・賞与において個人の反映につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加。法人主催の研修会が定期的開催されており、参加を促している。研修参加後は、報告会を行い各職員周知し、情報の共有化を図っている。又、施設内で勉強会を開き緊急対応時等の研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと定期的に親睦会を開き、交流を図ると共に意見・情報交換を行い困難事例の解決につなげている。また、法人の施設関係者が集まる「ワーカー会議」に参加し、情報交換や勉強会を行い相互の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学・情報収集・希望に応じて体験入居を実施し、本人の生活歴に合わせた支援を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談にてご家族の意見・要望等、常に連絡を密にとらせていただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・施設側の三者面談を取り入れ、それぞれの意見を把握し本人に適切なサービス利用が出来るようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や能力に応じて、できる事を皆で協力しあったりその中で生活の知恵など学び、支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊・一時帰宅等、協力していただける範囲で多に一緒に時間が過ごして頂けるよう自由な時間を設けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や能力に応じて、できる事を皆で協力しあったりその中で生活の知恵など学び、支え合う関係を築いている。	地域密着型の特性で、入居者の「馴染みの関係」は、継続している。家族との距離も医院への受診の帰りに、希望すればすぐ立ち寄ることができる。また、周辺の環境が良いので畑仕事など、本人の希望や能力に応じた「日常生活」が実現されている。地元の伝統行事の際には、獅子舞が施設を訪れるなど、入居者の馴染みが途切れない工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に出来ることを提供(レク全般・食事作りなど)、声を掛け合い役割分担において支え合える交流を持っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様から、連絡を頂いたり相談されたりがありますので、アフターフォローはきちんと対応をとっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に情報交換を取らせていただき、本人の希望・意向を把握しそれに沿った支援を行っている。	入居時に、本人・家族から生活歴や意向を確認し、記録している。入居後は、定期的に会議を開き、入居者について情報・意見交換をしており、常に新しい情報を共有している。家族や入居者本人への傾聴を丹念に行い、意向の把握に努めている。	入居者の家族の「認知症に対する理解」が、不十分の場合、家族の意向が施設との「温度差」や「ギャップ」となってしまう懸念があります。入居者の家族への「理解を深める」工夫を期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談にてご家族の意見・要望等、常に連絡を密にとらせていただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居1週間の生活状況を記録に取り、本人の生活レベルの把握につなげ支援内容を担当者会議において、本人のベースに合わせた支援を提供している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時・個人面談等で、それぞれの意見を聞き取り本人の意思を尊重した支援を作成している。	介護計画においては、本人・家族の意向や生活歴等を踏まえた上で、担当者制を採用し細かな観察を行い、職員会議で検討し、計画作成担当者が作成している。作成後は、職員全員へ周知を図ると共に、家族に説明し、了承を得ている。問題行動があった場合などは、「職員がどう関わるか」検討し、本人の思いをくみ取り、現状に即した介護を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、ケアカンファにおいて情報交換を密にとり情報の共有につとめている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの希望を聞き取り、外出・外泊・面会等は自由にできるよう支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	鴨川市、鋸南町のボランティアの導入を毎月取り入れている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は必要に応じて実施。週1の訪問看護の導入、24時間いつでも対応できるよう連携をとっている。	協力病院以外にも希望の掛かりつけ医への受診が可能となっている。希望に応じて、職員が通院の付き添いを行なっている。また、定期的に内科往診を実施しており、適切な医療支援が行なわれている。週1回訪問看護を実施しており、適切な健康管理を行なっていると共に、24時間連絡が取れる体制ができており、緊急時における連携体制が構築されている。必要時には、医師・看護師に相談し適切な対応が取れるよう協力体制も整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告を義務付け、記録の徹底にて管理者・ケアマネが把握し対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日お見舞いに伺い医師・担当者の方との関わりをもち、状況把握につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にそれぞれの説明をしご承のもと書類をかわし、情報共有をしている。	看取りに関する施設の方針や対応を明文化し、同意を得ると共に、本人・家族の意向を確認している。重度化した場合には、家族・医師・看護師等と話し合いを行ない、施設として出来る限り最大限の支援を行なっている。また、緊急時の研修や緊急時マニュアル・連絡体制の整備により、緊急時における対応方法を職員全員が身に付けている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	引き継ぎの時間に、緊急時の対応を声を出し合い周知につなげている。定期的に消防士を導入し実地訓練を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職連の時間を使って避難方法を皆で検討して、マニュアル作成をしている。	施設には、火災報知機・非常ベル・消火器が設置されており、近い将来、鴨川市の補助を受けてスプリンクラの設置が予定されている。年に3回の避難訓練を実施(夜間想定訓練を含む)している。地域地区長・消防団とも関係を築いており、万一の場合に備えている。緊急時対応研修・救急救命講習を実施している。	千葉県東方沖地震の際に、断水した経験がある。同法人の経営する老人保健施設に備蓄があるとのことですが、施設自体での備蓄を行うことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノック対応を徹底。また、会社の方針として接遇重視を掲げており、年4回の研修にて各自常に敬意を持って接する様教育している。	法人にて年4回の接遇研修を行っており、言葉遣いや声掛け方法の教育を徹底している。また、入居者との信頼関係を大切に、同性介助等にて、入居者のプライバシーに配慮している。	「入浴介助」が男性職員の担当になっており、女性入居者の心理を配慮する必要があると思います。また食事の際、職員が食器を驚つかみして、配膳していました。細かい「接遇マナー」の抜け落ちが無いよう、職員の力量チェックシートを使うなどして、施設全体の接遇レベルの均一化・レベルアップを期待します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をコミュニケーションを取りながら、趣味・嗜好品等を把握しまず自己決定できるよう促し実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間の決まりはありますが、無理にすすめず一人一人に合わせて自由にしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の床屋の導入、希望に応じて美容院の利用を実施。衣類等の購入は本人を選んで頂くよう買い物に同行している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けは皆で一緒にやる事を基本としている。メニューは一人一人に聞き取り各一したメニューにならないよう留意している。	各ユニットが、交代でメニューを作成。メニューの偏りを防ぎ、「食べる楽しみ」を確保している。食材の調達は、職員・入居者が一緒に買い物に行き選んでいる。一部の食材については、業者から購入している。季節感に富んだ特別メニューも提供している。現在は入居者が自立しているため、通常食だが、きざみ食・ミキサー食の提供も可能である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し残量を確認し、献立作成に反映させている。また摂取量の少ない方には代用品にてなるべく摂取ができるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。夜間はポリデント液に浸けこみ衛生面を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間おきのトイレ誘導、毎日排泄チェック表への記録にて、排泄パターンを把握している。また排泄はなるべくトイレでをモットーに支援している。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行うなど自立を支援している。便秘対策として食事の内容の考慮や、運動などを積極的に行い、オムツやパットの使用頻度を低くするように努力している。居室へのポータブルトイレの設置、夜間巡回時に、入居者が起きていれば声掛け誘導など、夜間の配慮も行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤での調整、適度な運動、繊維食物の提供、水分調整、腹部マッサージなど個々にあった支援をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴した日を記録に残し、2～3日に1回声かけにて入浴を実施している。	2ユニットの施設のうち、片方のユニットに「リフト浴」の設備がある。(現在まで入居者が自立しているため使用の実績はない)入居者の足腰が弱った際には、それを使って対応できる配慮がされている。入浴が無い日には、足浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。	女性職員が、食事の準備などで多忙を理由に、男性職員が入浴対応を行っているが、入居者の心理からすると、出来れば同性が入浴対応することが出来るように期待します。食事の準備を女性職員だけが行うのではなく、すべての介護職員がオールマイティに施設の仕事を出来るようレベルアップを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由にしていただいている。居室・ソファー・畳(こたつ)のスペースを利用。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については毎食事のファイルに処方箋を個人別に入れてありいつでも確認できるようにしている。服薬対応は必ず二人対応、名前・日付け・いつのものを声に出して確認する事を徹底している。症状の変化は必ず報告・記録に残すを義務付けしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは皆一緒に実施している。洗濯物整理・掃除・ぬりえ・買い物などそれぞれ自分の役割として率先して実施して下さるので、強制ではなく自由にできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望に添った支援を実施している。図書館・お墓参り・お見舞い等家族に了承のもとと支援している。</p>	<p>入居者の希望や気候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を毎日実施している。お墓参りや、家族との外出・外食など積極的に支援している。ウッドデッキや駐車場を活用して、お茶飲み・日なたぼっこ花火大会等、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。また、定期的に外出会を企画・実施しており、時には家族にも参加してもらい、戸外での楽しみを提供している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は施設側で管理し、買い物時にお金を渡し好きな物を選んで頂き本人に支払いをしていただく支援をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望により全て自由にできるようにしている。手紙はポストに投函するまでを職員同行にて実施している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の場は広い空間を保ち、浴室・トイレ等は間違えないよう表示をしわかりやすく配慮している。常に季節の花を生けたり、月の行事の写真や絵などで生活間を味わえるよう工夫している。</p>	<p>施設内は全面バリアフリーとなっており、トイレや廊下等十分な介助スペースが確保され、安全面に配慮している。施設は、南向きで日当たりが良く、窓からは緑が広がり、明るく開放的な造りとなっている。リビングには、ソファ・テーブル・和室スペースが設置され、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮している。ウッドデッキや駐車場にベンチ・椅子が置かれ、日なたぼっこやお茶飲みができるようになっている。また、敷地内には、畑があり、季節の野菜等を栽培している。毎日の清掃を徹底しており、施設内の清潔が保たれている。</p>	<p>和室スペースに、荷物が雑然と置かれ、折角のスペースが荷物置き場になってしまっている。季節の演出や、メリハリを付けた生活の為に、有効活用されることを期待します。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ、ソファー、畳のスペース等、自由に行き来ができるよう開放している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物以外は家庭で使用していた物を持ちこみ自由にしている。	希望に応じて馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっていると共に、畳やカーペットを敷く事も可能で、入居者が居心地よく生活できるよう配慮している。全居室にエアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理が行なわれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、洗濯物配り・リハビリを兼ね車椅子での自力移動などできる事はおいおいに出来るよう安全確保につなげている。		